R E N 14 号

S

Н



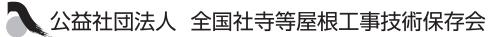




表 紙

会報名の手練(しゅれん)とは、熟練した手わざのことです。これからも、常に我々が文化財等の日本の屋根を守っているのだとの心構えを忘れず、会報名に恥じないような技術者になっていただくことを願って命名しました。

目 次

■文化財屋根葺士・	檜皮採取者 (原皮師)・茅葺師養成研修
	修了式並びに開講式・・・・・・・2
●来 賓 祝 辞	文化庁文化財部参事官付(建造物担当)修理指導部門 文化財調査官 黒坂 貴裕
	兵庫県教育委員会 文化財課 主査 田中 康弘
	和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課 主任 川戸 章寛
●修了生謝辞	文化財屋根葺士養成研修 第22期生 高島 優雅
●講師祝辞	公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事 事務局長 後藤 佐雅夫
●激励の言葉	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 中川 慶太
■文化財屋根葺士養	成研修 第23期生 前期研修 始まる ・・・・・・・・・・9
■檜皮採取者養成研	修 第18期生 及び
■平成30年度 茅葺	中級研修 · · · · · · · · 11
■平成30年度 茅葺	きフォーラム 開催 ・・・・・・・・・・12
■文化財屋根葺土養	成研修 第23期生 前期研修 終了 ・・・・・・・・・・・・・・・ 14
■平成30年度 文化	財研修会 · · · · · · 16
■平成30年度 檜皮	採取技術査定会 · · · · · · · 17
■主任文化財屋根葺	士 検定会 実施される ・・・・・・・・18
■平成30年度 檜皮	採取者 (原皮師) 18期生 終わる
平成30年度 檜皮	採取者 (原皮師) 中級研修 終わる ‥‥‥‥‥‥ 19
■平成30年度 檜皮	採取者 (原皮師) 特A研修を初めて実施 ・・・・・・・・・ 20
■準会員 名簿 ・・・・	21
■あとがき	

文化財屋根葺士・檜皮採取者(原皮師)・茅葺師養成研修 修了式 並びに開講式

【修了式】

- ●文化財屋根葺土養成研修 第 22 期生
- ●檜皮採取者(原皮師)養成研修 第 17 期生
- ●茅葺師養成研修 第4期生

期日 ■ 平成30年4月13日(金)

会場 ■ 京都市文化財建造物保存技術研修センター

文化財屋根葺士養成研修第22期生、檜皮採取者(原皮師)養成研修第17期生、茅葺師養成研修第4期生の修了式、並びに文化財屋根葺士養成研修第23期生、檜皮採取者(原皮師)養成研修第18期生の開講式を執り行いました。

今年も御来賓、関係各位の御臨席のもと、研修生たちは皆緊張した面持ちで式に臨みました。本年3月末には文化庁より「伝統建築工匠の技:木造建造物を受け継ぐための伝統技術」として、これをユネスコ無形文化遺産に提案されるとの報道がありました。当会もその認定団体として参加させていただくことで、その技術の研鑽に日々努めていかなくてはなりません。研修を修了した10名も新たに研修に励む8名も気を引き締めて一人前の職人を目指し、努力を重ねてください。ご指導をいただきました、関係各位、講師の先生方には心より御礼申し上げます。

[檜皮採取者(原皮師)養成研修 第17期生]

- ●時長 祐貴 / 岩﨑社寺工業㈱
- ●橋本浩太郎 / ㈱河村社寺工殿社
- ●松島 俊一/ 栗山木工侑
- ●伊藤 元輝 / 谷上社寺工業(株)



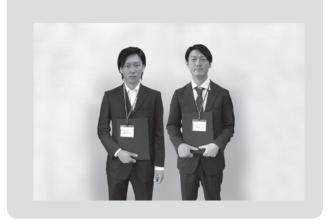
[文化財屋根葺士養成研修 第22期生]

- ●髙島 優雅 / (有)社寺工芸大紀堂
- ●井関 善晴 / ㈱友井社寺
- ●廣内 翔 / ㈱村上社寺工芸社
- ●槇原 孝宜 / ㈱村上社寺工芸社



[茅葺師養成研修 第4期生]

- ●余宮 祥平 / 同大西茅葺
- ●吉川 一生 / 美山茅葺㈱



【開講式】

- ●文化財屋根葺土養成研修 第 23 期生
- ●檜皮採取者(原皮師)養成研修 第 18 期生



[文化財屋根葺士養成研修 第23期生]

- ●岸田智太郎 / 岸田工業㈱
- ●小西 康介 / 小西工芸
- ●藤原 諒/田中社寺㈱
- ●古川 友喜 / 田中社寺㈱



[檜皮採取者(原皮師)養成研修 第18期生]

- ●西谷 将太/㈱河村社寺工殿社
- ●井上 裕貴 / 谷上社寺工業㈱
- ●井関 善晴 / ㈱友井社寺
- ●益満 響/(株)村上社寺工芸社





京都市文化財建造物保存技術研修センター前にて

来賓祝辞

文化庁文化財部参事官付 (建造物担当) 修理指導部門



文化財調査官 黒坂 貴裕

文化財屋根葺士、檜皮採取者(原皮師)、茅葺師の養 成研修 修了式ならびに開講式にあたり、一言お祝いを 申し上げます。

研修を無事修了された皆さん、お疲れさまでした。長期間にわたる研修により、屋根葺士や原皮師、茅葺師としての技術を習得し、またかけがえのない友人を得ることができたのではないかと思います。また、新たに研修に参加される皆さんは、研修中は体調に留意され、怪我をしないという現場の基本を忘れずに、有意義な研修を過ごしてください。

さて、先月末に文化庁は「伝統建築工匠の技:木造建造物を受け継ぐための伝統技術」として、これをユネスコ無形文化遺産に提案するための申請書を提出いたしました。この伝統建築工匠の技は、建造物に関わる選定保存技術14件、その認定団体13団体で構成され、この社寺等屋根工事技術保存会とその技術である檜皮葺・杮葺、茅葺も当然含まれています。

ユネスコ無形文化遺産とは、グローバリゼーションの 進展に伴い、世界各地で消滅の危機にある無形文化遺産 の保護やその重要性についての意識向上を目的としたも のです。無形文化遺産の定義は5種類あり、芸能や祭礼 などがありますが、今回の伝統建築工匠の技は、「伝統 工芸技術」、「自然及び万物に関する知識及び慣習」に該 当します。当然の事ながら、いずれも長い年月を超えて これからも伝承されていくことが必要です。したがって、 伝統建築工匠の技も、技術が伝えられていくことが確保 されていなければならない訳ですから、この研修こそが、 無形文化遺産としての核であります。また、選定保存技 術としても、その定義には、保存の措置を講じるかどう かということが含まれていますので、この研修が選定保 存技術としての核であります。

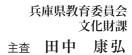
かつては、それぞれの親方のもとの徒弟制度という縦の繋がりによって伝承されてきた技術ですが、戦後の高度経済成長以降から現代までの社会の変化においては、その伝承システムの維持には無理があったわけです。そこで、横の繋がりでピンチを切り抜けて技術を伝承しようという、横の繋がりが選定保存技術団体であり、研修の同期生であります。

木造建造物を受け継ぐための職人としての仕事は、これから長く続けられることと思います。この研修で得ら

れるネットワークや友情は必ず今後の人生の支えとなり ます。そして、今後、修了生・研修生が大いに活躍され ますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていた だきます。

本日は、誠におめでとうございます。

来賓祝辞





本日は、文化財屋根葺士養成研修 第22期生及び檜皮 採取者(原皮師)養成研修 第17期生・茅葺師養成研修 第4期生が研修課程を無事に修められましたこと、誠に おめでとうございます。

日頃は兵庫県の文化財行政にご理解と、ご高配を賜り、 この場をお借りしてお礼申し上げます。

本日、この場で修了式を迎えられたみなさん、改めて おめでとうございます。今回の講習はいかがでしたで しょうか? 慣れない座学などで、普段の仕事とは違う 大変さがあったのではないでしょうか?

さて、先ほど黒坂調査官よりお話がありましたが、先日、「伝統建築工匠の技:木造建造物を受け継ぐための伝統技術」がユネスコ無形文化遺産へ、3月末には提案されるという報道がございました。これは、日本の高度な伝統技術や、これを継承するシステム、自然の材料を循環利用する知恵といった、これまで先人達が培ってきたものが世界に認められようとしている訳です。

遺産とは先人が残した財産という意味がありますが、 そういう意味では、その遺産をこの度の研修や、実務を 通じてみなさんが受け継いでいるということが言えるの ではないでしょうか。

AI、いわゆる人工知能の発達により、仕事の内容によっては、それらが組み込まれた機械が人間に取って代わるかもしれないとも言われておりますが、皆さんの技術というものは、そのようなものに決して代えることのできないものと断言いたします。ただ、言い換えれば、技術というものは一朝一夕では習得できるものではないということでもありますので、これからも技術の研鑚を積み、そして習得したワザを振るい、全国でご活躍されることを切に願っております。

そして、文化財屋根葺士養成研修 第23期生及び檜皮採取者(原皮師)養成研修 第18期生のみなさん。これからの研修では、思い通りに行かないことや、なかなか理解が進まないことがあるかもしれません。その時は、一人で悩まず、今、隣に座る仲間と共に取り組んでみてください。目の前の障害も、この同期の仲間となら突破することができるでしょう。一緒に取り組む仲間でありライバルと共に、一年間、切磋琢磨してがんばってください。応援しております。

最後に、20年以上の長きに渡り継続して研修を行い、

これまで多くの人材を育成し輩出されてきた保存会関係者の方々におかれましては、並々ならぬご苦労があったことと存じます。これはひとえに、将来の担い手の減少という事態に危機感を持ち、研修を通じて若い方々に技術を伝承する取り組みを業界全体でいち早く取り組まれてこられた保存会の方々の粘り強い努力の結晶だと言っても過言ではありません。改めてお喜び申し上げるとともに、私の祝辞に代えさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございました。

来賓祝辞

和歌山県教育庁生涯学習局 文化遺産課 主任 川戸 章寛



本日、文化財屋根葺士、檜皮採取者(原皮師)、それから茅葺師の養成研修の修了式、及び開講式が、このように盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。また、保存会はじめ、文化庁、関係機関の皆様には、日頃より大変お世話になっております。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

本日は、10名の研修生の皆さんが修了されるということで、皆さんが習得に励んでおられる檜皮葺、茅葺の技術は、言うまでもなく何百年も昔から続く、我が国が誇る伝統技術でありますが、このたび修了された研修も、文化財屋根葺士で第22期ということで、研修自体も長い歴史を持つようになってきました。このように継続して長く研修を開催されている保存会の皆様の御尽力に対し、改めて敬意を表するものであります。

さて、研修生の皆さんは、これから本格的に仕事に入っていきますが、皆さんにはぜひ、この先ずっと長く仕事を続けていってほしいと思います。日々の努力、一日一日を大切に過ごすことが伝統技術の習得には重要と思いますが、それを10年、20年、30年とし続けることによって、見えてくる世界があろうかと思います。檜皮葺、茅葺のお仕事を、長く続けていかれることを切に祈っております。

もちろん、そのためには皆さんが仕事を続けられる環境づくりと言いますか、習得された技術を存分に発揮できる現場がなければなりません。行政といたしましても、皆さんの活躍の場が少しでも広がるよう、努力していきたいと思っております。立場は違いますけれども、それぞれの立場で、ともに日本の伝統文化継承のために頑張っていけたらと考えております。

そして、本日、新しく養成研修に入られる8名の皆さん、最後まで元気に研修を終えられるよう、体調に留意して頑張ってください。

以上、簡単ではございますが、研修生の皆さんの今後 の御活躍と保存会の益々の御発展を祈念いたしまして、 お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、本当におめでとうございました。

修了生謝辞

文化財屋根葺士養成研修 第22期生 **高島** 優雅



私達はこの研修生活の中でたくさんのことを学ぶことができました。授業で学んだこと、現場で学んだこと、 ここにいる研修生一人一人がここでしか経験できない様々な貴重な経験を積み、学ぶことの楽しさや、一生の財産となる知識・技術を身につけたと思います。

楽しかったこともたくさんありますが、失敗したときに指導していただき、鍛えていただいたこと、教えていただいたことは忘れることはありません。この2年間にいろんな出来事がありましたが、一生忘れない大切なものをこの2年間で得ることができたと思います。今日でこの研修が終わってしまうのはとても寂しいです。この先の期待と、またどんなことがあるのかという不安の中で、この研修のこと、学んだことを忘れないで成長していきたいです。そして教えていただきました先生方やお世話になった皆様のことを忘れることなく、学んだことをしっかりと胸に抱き、伝統を受け継ぎ、次の世代の手本となれるよう頑張っていきたいと思います。

最後に本日ご出席いただきました皆様、誠にありがと うございます。

以上をもちまして、修了生代表の挨拶とさせていただ きます。



講師祝辞

公益社団法人 全国国宝重要文化財所有者連盟 常務理事事務局長後藤佐雅夫



本日は文化財屋根葺士養成研修第22期生・檜皮採取者養成研修第17期生・茅葺師養成研修第4期生修了式・文化財屋根葺士養成研修第23期生・檜皮採取者養成研修第18期生開講式に先立ち講師を代表して祝辞をさせていただくこと光栄に存じます。心からお祝い申し上げます。

私はこの会では任意団体のころからの付き合いで、半世紀以上になり、京都府教育庁文化財保護課在任中から本格的に講師を引き受けてまいりました。その当時の研修を受けた方々の内、村上会長をはじめ役員として活躍されていることに感慨深いものがあります。

このたび研修を修了された方は研修と仕事を両立され、大変だったことと存じますが、多くの技術と知識を得られましたことは何にも勝る財産であります。これからは、我が国の財産であり、世界遺産にも登録されている国宝・重要文化財の修理に従事されることであり、文化財所有者としては、皆様の技術を期待しています。私は所有者から未指定の屋根葺き替えの修理工事の監督を依頼されますが、研修を修了された方から声を掛けられ、うれしく存じます。私も65年前に文化財修理の技術者として滋賀県教育委員会に採用頂きましたが、当時の檜皮の検査は今から考えれば大変厳しいものであり、現在では考えられないものであります。高齢者になった今も檜皮に対する情熱は変わっていません。

皆様も研修を終えても、神社建築・寺院建築・民家建築とそれぞれの構造が違いますのでそのあたりを考えながら、作業をしていただきたいと思います。

仕事で疲れ、勉強どころではないかと思いますが、私が結婚するときのはなむけの言葉として家に帰ったら30分でもよいから、今日の反省と明日の段取りをしてから夕食にしなさいと言われました。夜に段取りしておくと明日の仕事が順調に施工できます。

最近、檜皮葺の現場を見せていただきましたが、一か所、軒廻り付近で「ねこで」があり、軒廻りの落ち込みが出来ていないのがありました。私の師匠が一番嫌がる仕事です。軒廻りや平葺の定規を作り、監督さんの許可を得て実施してください。研修所で良い点をとっても本番で悪ければなんにもなりません。

檜皮採取者も恵まれない環境の中で大変な仕事であります。鉄則として木の性質を考えること、甘皮を剥かな

いことなど注意するとともに、一番大切なものとして振り縄の使い方を十分に練習しないと命にかかわる問題が あります

茅葺の問題ですが、現職中に民家所有者から茅の締め 方が悪いと注意され、ある寺の茶室の屋根にはカラス除 けのネットが張ってあります。これらについても工夫が 必要であります。特に民家は収入もなく相当困っていま すので、しっかりとした施工をしていただきたいと思い ます。

何時も変わらない祝辞となりましたが、皆様の健康と 今後の活躍を祈念して私の言葉とさせていただきたいと 思います。

激励の言葉

京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課 課長 中川 慶太

ますことを心からお慶び申し上げます。



本日は、文化財屋根葺士養成研修並びに檜皮採取者(原 皮師)養成研修の開講式がこのように盛大に執り行われ

また、日頃は村上会長をはじめ、全国社寺等屋根工事 技術保存会におかれましては、文化財の修理事業や伝統 文化の技術継承に御尽力いただいており、この場をお借 りして厚く御礼申し上げます。

本日は、文化財屋根葺土養成研修第23期生として、 岸田智太郎さん、小西康介さん、藤原諒さん、古川友喜 さんの4名と、檜皮採取者(原皮師)養成研修第18期生 として、西谷将太さん、井上裕貴さん、井関善晴さん、 益満響さんの4名、合計8名の皆様を、それぞれの研修 の新入生としてお迎えできましたこと、まことに喜ばし く思います。皆様には、体を大切に怪我なく頑張ってい ただき、これからの研修を一生の財産としていただきま すようお願いします。

さて、今から40年以上前、当時の高度経済成長という社会環境の変化を受け、昭和50年に文化財保護法が改正され、文化財の保存に欠くことのできない伝統的な技術が保護の対象になりました。これまでの間、関係する皆様の御尽力により、技術継承について成果が挙げられてきました。

しかしながら、一方で、現在、御存知のとおり、人口 減少に転じるなど、これまでに経験のない社会状況の急 激な変化を迎えております。

文化財の保存技術につきましても、修理する資材や原材料の確保がますます困難になり、かつては容易に調達できていた資材も、手をかけて育てていく時代になっており、厳しい状況にあります。

そのような中、全国社寺等屋根工事技術保存会の伝統を受け継ぎながら工夫を重ねて発展してきた技術をしっかりと引き継いでいただいている取組が、文化財保護にとって、大きな意味を持っており、また、ここ京都市文化財建造物保存技術研修センターで技術を学ばれ、全国の文化財修復の現場で御活躍されることはまことに心強い限りです。

京都市におきましても、文化財保護にとって大きな転換点を迎えていることを受け、これまでの取組の成果や課題を踏まえ、文化財を次世代に継承するために求められる文化財保護の在り方について、包括的な検討を行うことが必要と考え、「これからの文化財保護の在り方」について、京都市文化財保護審議会で審議するなど、全国のモデルとなるべく検討を進めることとしております。全国社寺等屋根工事技術保存会の取組や皆様の御経験をお教えいただき、共に文化財保護の取組を推進させていただきたいと考えておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

結びにあたりまして、研修生の皆様が文化財の保存技

術者として研鑽に励んでいただき、将 来の文化財の守り手として御活躍いた だきますこと、並びに、本日御出席い ただいております皆様の御健勝と御多 幸を祈念いたしまして、簡単ではござ いますが激励の言葉とさせていただき ます。



文化財屋根葺土養成研修 第23期生 前期研修 始まる

平成30年度文化財屋根葺士養成研修 第23期は、全国 各地から4名の研修生を迎え、4月13日の開講式の後、 5月8日より本格的に開始しました。

この研修は、屋根葺経験の少ない者や初めての者を対 象に実施するもので、材料整形や屋根葺の基本となる技 術の習得はもちろん、実習以外にも日本建築史や構造へ の理解などの座学を含め、植物性屋根全体への理解に繋 がる基礎を固めていただきたいと思います。

まだ始まったばかりの研修ですが、一人一人が目的意 識をもって有意義な研修となるよう心から願います。 今後もご指導のほどよろしくお願いします。







あて台作り





現場研修



檜皮採取者養成研修 第18期生 及び 平成30年度 檜皮採取中級研修 始まる

平成30年度の第18期檜皮採取者初級養成研修が、8月3日、8月21~24日に文化財建造物保存技術研修センターでの合同講義をかわきりに始まりました。

初級研修











内容は文化財保護法、原材料採取方、原材料性質と種類、労働安全衛生法等です。実技研修は、9月3日より河内長野市市有林においてスタートし、指導員および指導補助員から檜皮の採取方法、木を傷めないへらの使い方、荷造り、山の歩き方等教わり、檜皮採取者としての一歩を踏み出しました。檜皮葺にとってとても重要な仕事です。今後は技術の研鑽とともに、技術の継承、資質の向上を目指し研修に取り組んでいきたいと思います。

平成30年度の檜皮採取中級研修も9月3日からの宮島国有林より始まりました。今年度は28名にて2月15日を最終日とし、15クール(1クール4~6名)を全国の国有林等で採取研修をしていきます。また、技術力の高い中級者には指導補助員として初級研修生の指導にもあたってもらいます。

国有林をはじめ山林保有者の方々、研修関係者の方々には今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

中級研修







平成30年度 茅葺中級研修

今年度の茅中級研修は、6月19日から(一社)日本茅 葺き文化協会 安藤邦廣様はじめ横浜国立大学 大野敏 様、京都府文化財保護課 鶴岡典慶様にご講義いただき ました。8月20日からは、山南センターの模型を使用し、 当保存会の隅田隆蔵正会員を指導員として稲藁の逆葺 研修を行いました。9月3日からは、京都市左京区の 吉田神社内の外宮宗の茅葺屋根を研修現場として提供 いただき、実技研修を行わせていただきました。

この屋根は伊勢神宮の縮小版の様なもので、神明造 のとても難しい屋根です。そこで、指導員には伊勢神 宮式年遷宮3回の経験をもつ、当保存会の田中正光正 会員にお願い致しました。また研修生には3年以上の経 験がある、若手職人3名で行いました。切妻の屋根で しかも小さく、高度な技術と先を見越した材料使いが 求められ、研修生も苦労したと思いますが、一般民家 とはまた違った技術を知る機会になり、勉強になった と思っております。奥はまだまだ深いので、これで出 来たとは思わずに、今後も精進していってもらえたら 嬉しく思います。

ご講義いただきました諸先生方、研修現場を提供い ただいた吉田神社様には、この場を借りて御礼申し上 げます。

山南センターでの 稲藁の逆葺研修







軒付



軒そろえ



奥おさえ





吉田神社内の外宮宗での実技研修



葺き替え前



葺き替え後

平成30年度 茅葺きフォーラム 開催

期 間 ● 平成30年9月11日(火)・12日(水)

会 場 ● 吉田神社

(京都市左京区吉田神楽岡町30) ルビノ京都堀川

(京都市上京区東堀川通下長者町下ル3-7)

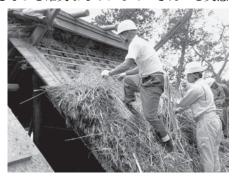
11日午後より現場見学会、翌12日に協議会を行いました。現場は台風の影響で思うように工事が進まず、見学会では解体の様子を見てもらうことになりました。しかしながら、解体途中の屋根はなかなか見られるものではないと、みなさん興味深く見学され、質問もたくさん頂き、これはこれで有意義であったと思いました。

12日は、前日の現場見学会を踏まえて、熱のこもった議論となりました。村上会長の挨拶に始まり、文化庁より黒坂様、京都市文化財保護課より中川様に来賓挨拶を頂き、また講演では、京都府文化財保護課の鶴岡様に「茅葺きのこれから-20年前の討論を振り返って-」の

内容で、とても有意義で考えさせられるお話を聞くこと ができました。

その後、それらを踏まえた上で、「茅葺の歴史と暮らし方」をテーマに討論会を行いました。20年前より屋根も暮らしも随分変わってきた為、課題がたくさんありすぎて、充分に話し合える時間を取ることができませんでしたが、確実に若手の職人は増えております。ますますこれから先が楽しみ…と感じました。今後も後継者育成と技術の継承をもっと確実なものにしていきたいと実感

致しました。 毎年ですな、このような存ったが、 会を与えて思っています。 がとうございようございよした。



吉田神社外宮宗 解体風景

見学会「吉田神社外宮宗」

現場説明 ● 公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会 正会員田中正光

協議会「ルビノ京都堀川」

開会挨拶 ● 公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会 会長村上英明

来 賓 挨 拶 ● 文化庁文化財部参事官付 (建造物担当) 修理指導部門 文化財調査官 黒坂 貴裕 京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課長 中川 慶太

講 演 ● 京都府教育庁指導部 文化財保護課 建造物担当課長 **鶴岡 典慶** 題目「茅葺きのこれから - 20 年前の討論を振り返って - 」

討 論 会 ● 議題「茅葺の歴史と暮らし方」 「司会」公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 理事 中野 誠

総 評 ● 文化庁文化財部参事官付(建造物担当)修理指導部門 文化財調査官 黒坂 貴裕

閉会挨拶 ● 公益社団法人全国社寺等屋根工事技術保存会 副会長 大野 浩二

見学会





現場見学

協議会



文化財屋根葺土養成研修 第23期生前期研修 終了

去る9月7日、5月初旬から開始した文化財屋根葺士 養成研修第23期生の前期研修を無事終了いたしました。 屋根工事技術者として初々しかった研修生たちも、およ そ半年の課程を終え、少したくましくなったように感じ ます。

期間中は行政をはじめ、ベテラン職人の方にも様々な 講義・指導を受け、屋根工事技術に関わる幅広い知識を 習得するための機会を得ることができました。材料拵え や檜皮採取の実習、近畿、中部地方の現場を回っての現 場実習、座学としては、労働安全衛生法や文化財保護法 を受講しました。また、建築史演習として重要文化財等 の建造物の見学、さらに植物性屋根のみならず、瓦葺の 技法についても学習する機会を設け、非常に充実した研 修を実施することができたと思います。

この間、研修生は専門科目120時間、特別科目20時間、 技術実習を552時間、総計692時間を履修しました。初 めての者は勿論のこと、数年経験した者も新たな発見、 より深い理解に繋がり、また今後の取り組みに生かして いけるものと思います。



檜皮拵え



ロープ掛

今後は、来春5月まで各事業所に戻っての作業となりますが、この6か月間の経験を少しでも生かせることができれば幸いです。後期研修が始まるまでにこれまでの事を復習し、また健康管理にも留意し、より高い志で後期に臨んでもらいたいと思います。

最後になりましたが、関係者各位にはお礼を申し上げ ますとともに、今後もご指導ご協力の程宜しくお願い致 します。



檜皮採取実習



檜皮揃え



竹釘作り





柿板拵え



建築史演習 二条城の見学



(一社) 日本伝統瓦技術保存会による座学



座学

平成30年度 文化財研修会

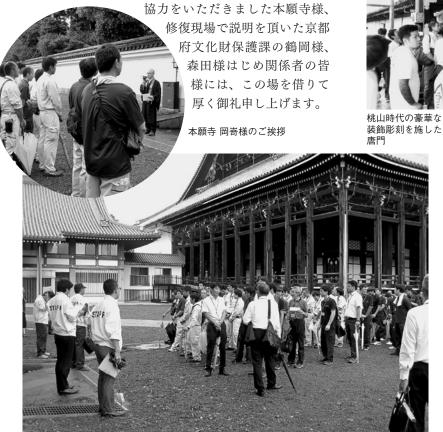
期 日 ● 平成30年9月7日(金)

会 場 ● 龍谷山 本願寺(西本願寺) (京都市下京区堀川通花屋町下ル)

参加者 ● 117名

今年度の研修会は、修復工事が行われている国宝 本 願寺 飛雲閣及び唐門にて開催いたしました。当日は、3 班に分かれて飛雲閣と唐門、そして普段は公開されてい ない書院内の見学をさせていただいた後、安穏殿にて当 保存会の岸田信行正会員による飛雲閣の事例報告が行わ れました。特異な形状を誇る飛雲閣の施工写真を見なが ら説明を聞き、その後質疑応答となりました。この杮葺 の屋根は各所に施工者にとって悩ませられる箇所が多く あり、施工に直接携わっていない者も皆一様に熱心に聞 き入っていました。このような情報を共有することで、 屋根葺師個々の知識や見聞も広がり、今後の文化財修復 に必ず生きてくるものと感じました。

最後になりましたが、今回の文化財研修会に多大な御



御影堂前に集合した117名の参加者



丸太組みの 素屋根で覆われた 飛雲閣



素屋根に登り、杮葺き替え作業を間近で見学する参加者



装飾彫刻を施した



檜皮葺・唐破風前の足場で説明する京都府 鶴岡様



岸田正会員による事例報告

平成30年度 檜皮採取技術査定会

期 間 ● 平成30年10月4日(木)・5日(金)

会 場 ● 二上山蓮華院両山寺 境内林 (岡山県久米郡美咲町両山寺323)

檜皮採取技術査定会は、檜皮採取研修生の日頃の研修 成果を査定するとともに、技術の継承と向上を目的とし て毎年行っております。

当日は、査定会の場所としてご協力いただいた両山寺 住職 井上観賢様をはじめ総代にもお越しいただき、保 存会会長はじめ理事、派遣事業所会員、事務局も参加し 総勢31名にて行いました。(内、査定を受けた研修生は 初級 4 名とB~Cランクの13名。査定員は、指導員 2 名および指導補助員3名の合計5名。)また、文化庁文 化資源活用課(修理指導部門)調査官 黒坂貴裕様も視察 に来られ、檜皮採取作業に大変興味を持って見ていただ いたと思います。

この度の査定会の採点結果は今後、年明けまで行われ る年間実績考課価値に加味し次年度のランクを決定、後 日派遣事業所に通知いたします。採取研修期間内の序盤 に査定会を行いましたが、これからまだ通常の研修は続 きます。査定会が終われば終了ではなく、ここからまた 採取研修に真摯に取り組んでくれることを期待します。

最後に、今回査定会の開催にご協力いただきました両 山寺の皆様に心より感謝申し上げます。



両山寺 住職 井上観賢様によるご挨拶



振り縄とへらを使い皮を剥きあげる



剥いだ皮を集め結束する



視察された文化庁の黒坂様と査定員

主任文化財屋根葺士 検定会 実施される

檜皮・杮葺【第18回】 ○ 平成30年10月15日(月)~10月20日(土) / 5名(檜皮葺師4名・杮葺師1名 うち2名は学科のみ)

葺【第10回】○ 平成30年10月15日(月)~10月20日(土) / 2名(うち1名は学科のみ)

[会場●丹波市ふるさと文化財の森センター]

今年度の検定は、学科検定のみの受検者も含め、合計 7名の受検者を迎えて実施しました。指定屋根模型を使 用した実技検定では檜皮葺2名と杮葺1名、茅葺1名の 屋根葺士が挑み、それぞれ試行錯誤しながら真剣な眼差 しで取り組んでいました。最終日の検定会ではOFFICE 萬瑠夢の村田信夫先生をはじめ、京都府、滋賀県、奈良県、 (公財)文化財建造物保存技術協会の文化財担当の皆様、 加えて当会理事・監事らが、仕上がった模型の出来栄え

について査定を行いました。 今回は学科のみの受検者も含め、檜皮葺3名・杮葺1 名、茅葺では2名が合格いたしました。残念ながら不合 格となった者については更なる研鑽を、また合格した者 についても、常に上を目指す姿勢を忘れずに現場と向き 合って頂きたいと思います。

最後に、本検定会にご協力を頂きました皆様に紙面を 借りて御礼申し上げます。



檜皮葺実技検定



主任文化財屋根葺士 認定証 更新講習会 開催

去る11月16日(金)、京都府文化財保護課から鶴岡典 慶建造物担当課長をお招きし、更新講習会を開催いたし ました。鶴岡様には、更新対象者18名を前に、スライ ドを用いた文化財修理の実際について講義を頂き、今後 の課題についても問題提起を頂きました。当日は、受講 生との対話形式で進められ、各々が感じている疑問につ いても話し合いがなされ、有意義な講習会となりました。

受講された皆さんには、今一度初心に帰り、今後の仕 事に生かして頂きたいと思います。

[会場●京都市文化財建造物保存技術研修センター]



平成30年度 檜皮採取者(原皮師) 18期生 終わる

平成30年度の檜皮採取者(原皮師)初級養成研修は、4名の研修生にて9月4日より河内長野市有林に入山し、日向大神宮、九大演習林、那岐山国有林、岡室氏民有林、秩父市管理の栃本市有林にて、10クールに及ぶ実技研修を終了しました。各クールの指導員による指導のもと、4名の研修生が切磋琢磨し、実りのある研修に



なったと思います。来年度からは中級研修生としてさら なる技術の研鑽に期待しております。

研修にご協力いただいた山林所有者、国有林の関係者の皆さまに感謝申し上げますと共に、今後ともご理解と ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度 檜皮採取者(原皮師) 中級研修 終わる

平成30年度の檜皮採取中級研修は、28名の研修生にて、9月3日の宮島国有林から始まり、三上山国有林、賤母国有林、別所国有林、地獄谷国有林、城山国有林、徳山試験地で全15クールの研修を行い、2月15月に終了しました。今期は、台風など天候の影響で採取量が少なくなるクールもありましたが、中級者の技術、意識の向上により、全体の採取量は多くなってきていると思い



ます。今後も、研修生同士が切磋琢磨し、より高い技術、 意識を持って、檜皮屋根の素である丸皮の質の向上と維 持に努めてください。

今年度も研修林を提供していただいた近畿中国森林管理局及び中部森林管理局、京都大学の各森林の関係者の皆さまに感謝申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。



平成30年度 檜皮採取者(原皮師) 特A研修を初めて実施

今年度は新たに、特A檜皮採取研修を2月18日から23日までの期間、平岡八幡宮様の森にて大野浩二指導員と研修生4名の計5名にて実施しました。(特A:中級研修生の中でも特に技術力がある者=Aランク付けされた者が3年以上その技術査定の考課値を維持した者)中級研修とは別に、大径木のある森で行う研修は特A研修生にとって特化したものになります。短期間ではありますが選定技術保持者大野氏との檜皮採取作業、寝食を

共にした1週間は、また新たな発見があるなど良い経験 になったのではないかと思います。

研修林を提供いただいた平岡八幡宮様に感謝申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力をよろしくお願い申 し上げます。













■準会員

[五十音順]

NI-	п
No.	氏 名
1	青木胤勲
2	青木照幸
3	青山亨
4	赤嶺尚耶
5	赤嶺 怜
6	朝野達也
7	芦田 健太
8	蘆田 祐明
9	足立 健一
10	足立 大
11	安部 悟司
12	飯野 映稚
13	池田 陽輔
14	井阪 智
15	石井 潤
16	石井 規雄
17	石川 良三
18	石塚 健一
19	井関 善晴
20	市 原 健
21	一色 律男
22	伊藤 貴弘
23	伊藤 延行
24	伊藤 元輝
25	伊東 洋平
26	糸賀 一道
27	井上 裕貴
28	居原田 浩樹
29	入 江 匠
30	岩 﨑 正
31	上野 英樹
32	上 村 淳
33	瓜生 玉樹
34	大 崎 悠
35	大西 康純
36	大野 沙織
37	大野 隼矢
38	岡 祐紀
39	緒方 伸也
40	岡野 史和
41	岡本 葉澄
42	奥田 治郎
43	奥田 正博
44	奥田 譲
45	尾崎 良助
46	小澤 翔太
47	方山 和也
48	勝部 哲也
49	加藤 貴規
50	金谷 史男

No.	氏	名
51	金礒	豊
52		真匠
53	金子寺	英生
54	上出	健
55	亀井岩	軍彦
56	嘉本	羊士
57	川田名	恵宏
58	河野 修	二郎
59	菊 池	保
60	岸田 智	太郎
61	岸田间	直彦
62	北川フ	文 廣
63		臣一
64	吉川音	第二
65	木下 和	11也
66	木下;	真介
67	木村(建太
68	清田章	幸臣
69	國本別	作 史
70	栗山)	と博
71	栗山加	推二
72	栗山き	亨博
73	小池 -	一平
74	古川 -	一敏
75	児島 勇	真介
76	児玉り	典史
77	後藤丰	哲夫 一
78	小西 鳥	東介
79	小西 釒	終信
80	小林山	E之
81	小原 -	一樹
82	駒	計
83	近藤	竜太
84	酒井。	慶 伍
85	寒河江	清人
86	佐々木	孝則
87	澤田昌	1己
88	塩田ド	& 司
89	須 賀	均
90	須賀丬	爭志
91	杉井喜	喜 雄
92	杉谷	功
93	高 木	諒
94	大下倉	優
95		憂 雅
96	高平月	券也
97	竹嶋ラ	大貴
98	竹森	易哉
99	武山」	貞 秋
100	立木的	1 土

No.	氏 名
101	田中 順也
102	田中 慎一
103	田中 貴也
104	田中 智紗衣
105	田原 一生
106	寺田 美乃里
107	戸梶 憲幸
108	時長 祐貴
109	永瀬 慶祐
110	中根 悠太
111	長野 直人
112	永原 光敬
113	中村 裕司
114	中森 千尋
115	西 裕之
116	西谷 将太
117	西堀 大樹
118	西村 聡央
119	西村 信生
120	沼澤 修一
121	野谷 嘉邦
122	BAATARSUREN BAT ERDENE
123	橋本 浩太郎
124	林 直希
125	原田 暢俊
126	東 友一
127	檜 篤広
128	平田 将大
129	平野 健太郎
130	平野 裕也
131	廣 内 翔
132	深本 英昭
133	福岡 亮太
134	藤中 竜也
135	藤原諒
136	渕上 大輔
137	古川 友喜
138	細見 和希
139	細見知憲
140	細 見 裕
141	堀内 博樹
142	堀江 栄行
143	本多 亮貴
144	毎熊 徳満
145	槇原 孝宜
146	益満 響
147	松木 裕紀
148	松島 俊一
149	松田 哲也
150	松村 省弥

	[五] 日順]
No.	氏 名
151	松村 純孝
152	松村 有記
153	三上 直
154	三木 宏祐
155	道繁 康
156	三ツ出 俊平
157	緑川 幹雄
158	峰地 幹太
159	三又 誠也
160	向田 学
161	村岡 伸康
162	村上 章浩
163	村上 貢章
164	森 壮馬
165	森山 淳希
166	門馬 龍輔
167	矢野 友則
168	山口 成貴
169	山口 宗平
170	山田 勇生
171	湯田 詔奎
172	湯野 尚一郎
173	吉川 一生
174	吉竹 秀紀
175	余宮 祥平
176	和田 琢男
177	渡辺 昌弘
178	渡部 雄太
	(0010 4 1 III tr)

(2018.4.1現在)

発 行 所

京都市東山区清水二丁目 205-5 文化財建造物保存技術研修センター内



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会

TEL 075-541-7727 FAX 075-532-4064 http://www.shajiyane-japan.org



第 14号

令和元年7月31日発行

あとがき

東京オリンピックまであと1年、オリンピック代表選手の選考に向けた大会が各地で行われています。韓国・光州では水泳の世界選手権が行われ、男子200メートル個人メドレーで瀬戸大也選手が1分56秒14で金メダルを獲得、競泳での五輪内定1号に決まりました。これから次々と代表選手が決まっていくと思いますが、1年後に繰り広げられる選手たちの活躍が大変楽しみです。

やっと梅雨も明け、本格的な夏の到来です。毎日 暑い日が続きますが、体に十分気を付けて、日々の 作業に臨んでください。



公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会